

地域とともに学校を創る



～気高地域学校統合準備委員会だより～

第3回気高地域学校統合準備委員会を開催しました

木下公明さんに小中一貫教育についてご講演いただきました！！

6月8日、19名の委員さんの参加のもと、第3回気高地域学校統合準備委員会が開催されました。前回の会議で小中一貫校について詳しく話を聞いてみたいという意見があり、気高地域出身で鳥取市に初めてできた小中一貫校「鳥取市立湖南学園」の初代校長を務められた木下公明先生を講師に迎えてご講演をいただきました。

講演で、「新しい時代を生きていく子どもたちに必要な力を養うため、国としても、社会の変化・子どもの変化に対応できる教育システムとして小中一貫教育を推し進めており、それぞれの地域が抱える課題解決のための1つの選択肢として気高地域においても検討してはどうか。」といったことから話されました。そして、小中一貫校設立に関わられた体験談として、「学校統合は地域文化の融合であり各校区に根差した文化を守りながら気高文化へ発展させていくような取組が重要です。」と言われ、運動会を例にあげてご説明をいただきました。最後に、あくまでも「子どものための統合」という第一義を最優先とし、「なぜ統合したのか大人たちが子どもたちにも説明できるよう、統合準備委員会でしっかりとした議論をする必要がある。」としめくられました。

本委員会では次回以降、さらに新しい学校の学校種や設置位置について議論を深めていきたいと考えています。あらためてこのたび、気高地域の将来を担う子どもたちのためにご講演いただきました、木下公明先生に紙面をかりて感謝を申し上げたいと思います。



平成20年4月に県内初の小中一貫校として開校した湖南学園の様子

※第3回会議資料・議事概要はこちらからご覧いただけます⇒



議論の内容を紹介します

～第3回気高地域学校統合準備委員会の議論より～

◆学校種（学校の形態）について

いきなり小中一貫校にするよりも、まず4つの小学校を1つの小学校に統合するほうがいいのではないのでしょうか。



でも、将来的に小中一貫校にするなら、今からその時のことも考えておく必要がありますね。

◆学校の場所について

中学校の周辺は高低差があるので、校舎とグラウンドを行き来するのに時間がかかってしまうのではないのでしょうか。



これからは小・中学校の先生が授業のため学校を行き来することが増えてくるようです。学校が離れていると子どもや先生の移動が大変になるのではないのでしょうか。

ともだちたくさん、楽しいね（気高中学校区の交流の様子をご紹介！！）

気高町内4つの小学校では、日ごろから様々な機会を捉えて交流をおこなっています。6月22日には、宝木小学校・瑞穂小学校の児童とひかり保育園の園児が近くの畑でじゃがいも掘りを行いました。

当日は、天候が心配されていましたが、良い天気恵まれ正に子どもたちの活動を天が応援してくれるなか、園児・児童がふれあいました。小学校統合に向けてこのような活動を通じて、各学校の児童同士の仲間意識が育まれています。

なお、交流の様子は各校のホームページでもご覧いただけます。子どもたちが安心して学校へ通えるようこれからも見守っていきたいと思います。



発行：気高地域学校統合準備委員会
事務局：鳥取市教育委員会事務局校区審議室
TEL : (0857) 30 - 8405
E-mail : kokushingi@city.tottori.lg.jp